

# 上肢 1

XI 上肢の体表観察

XII 上肢前面（屈側部）の表面観察

XIII 前上腕部

# 体表観察

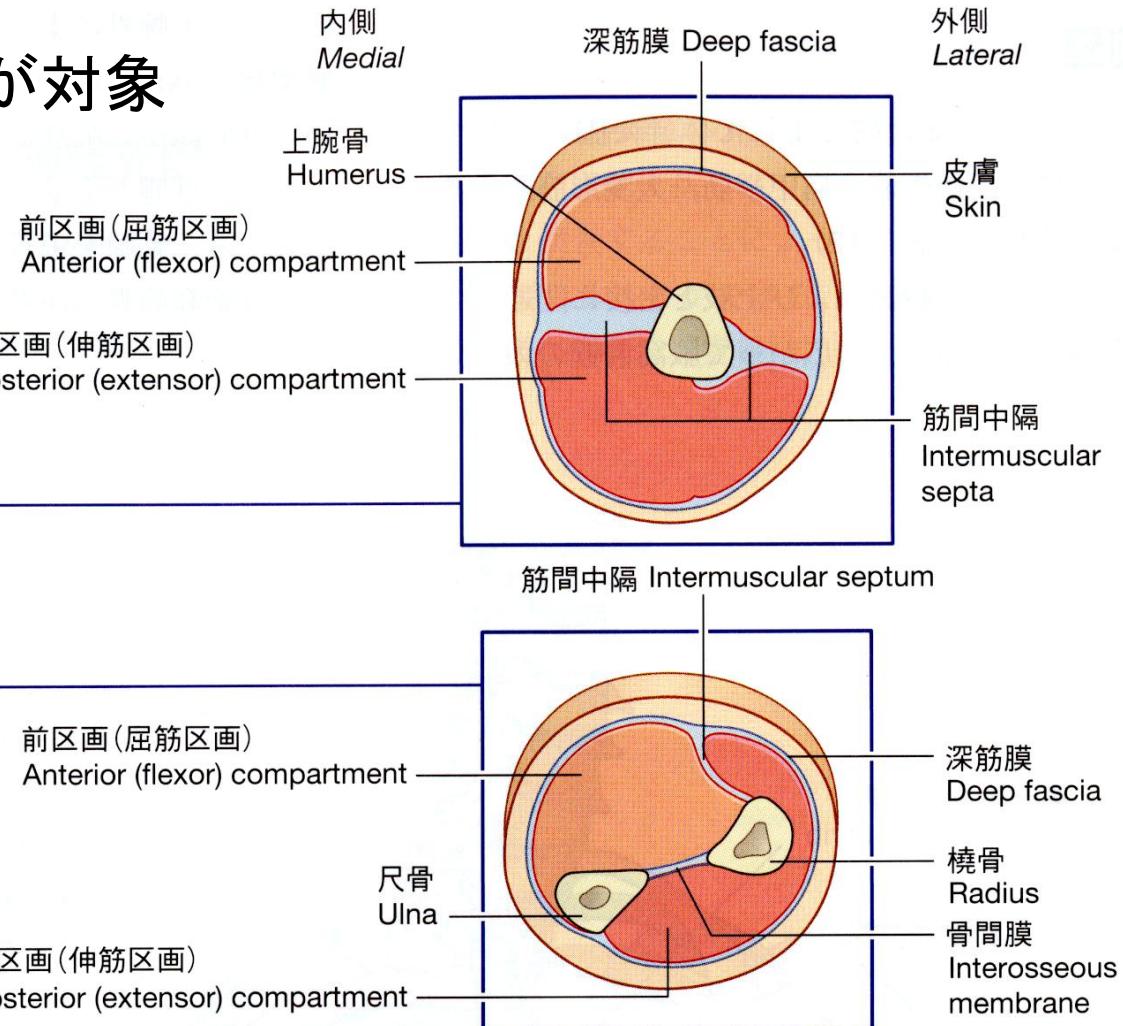
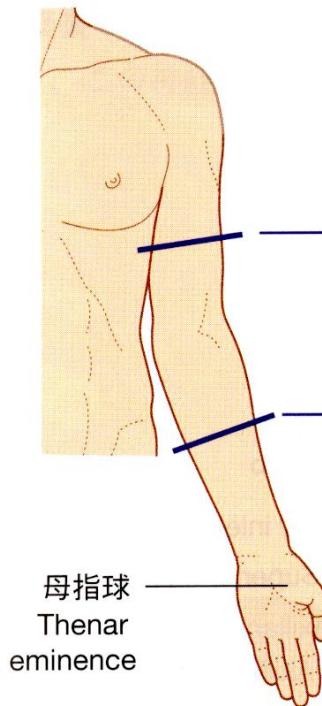
## 手引き 18 ページ

メスを入れる前に、各部位について観察、触知する

- 鎖骨
  - 肩甲骨
    - 上角・下角
    - 内側縁・外側縁
    - 肩甲棘
    - 肩峰
    - 鳥口突起
  - 上腕骨
    - 上腕骨頭
    - 大結節
    - 内側上顆
    - 外側上顆
    - 尺骨神経溝
- 腹臥位のとき  
観察
- 尺骨
    - 肘頭
    - 茎状突起
  - 橋骨
    - 橋骨頭
    - 茎状突起

深筋膜（上腕筋膜と前腕筋膜）は上肢の筋を包み、その一部は骨に向かい筋間中隔を形成する。筋間中隔や骨間膜により前区画（屈筋区画）と後区画（伸筋区画）に区分される。

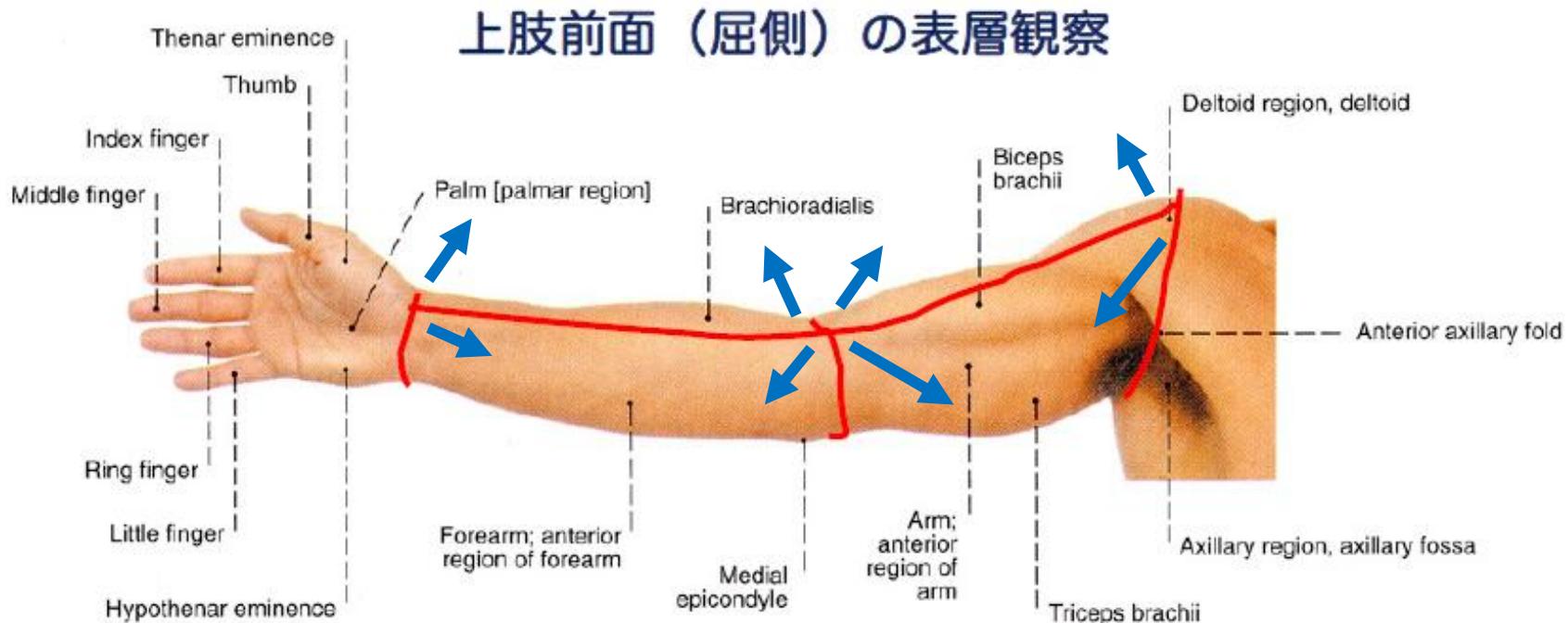
## 本日は上腕の前区画が対象



# 切開線を入れる

手引き 18 ページ

1. 肩峰と腋窓中央部を結ぶ環状の切開線
2. 前腕の両茎状突起を結ぶ環状の切開線
3. 肩峰から橈骨 茎状突起まで縦の切開線を入れ、肘頭の高さで環状の切開線を入れる。
4. 切開線の部位から上腕および前腕の屈側面の皮膚を剥離する

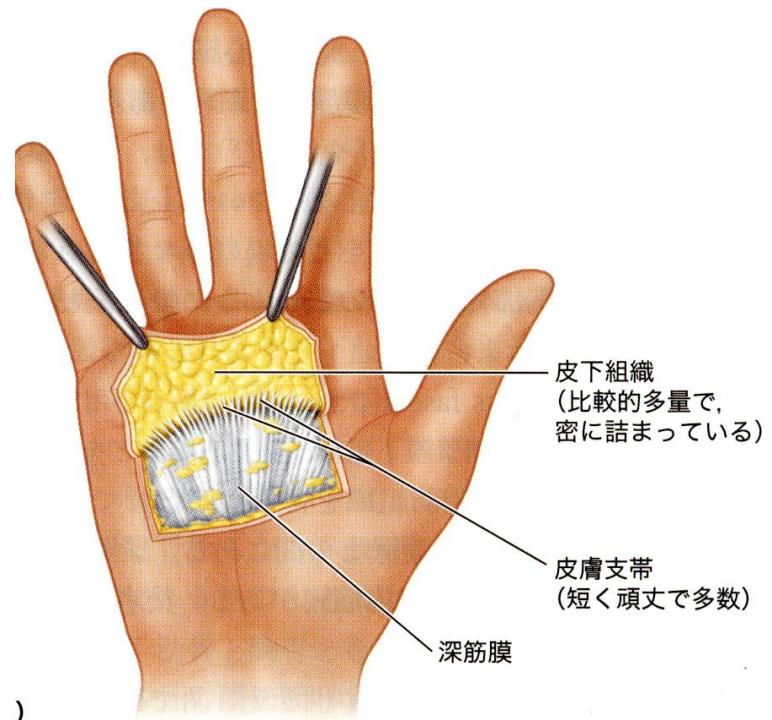


環状の線は背臥位で入れることができるとこままで  
(腹臥位 (うつ伏せ) にする必要はない)

手掌の皮膚は皮はぎに時間がかかるため、時間のある時に手掌の皮はぎをすすめる。

さいの目状に切れ込みを入れて皮はぎをおこなう。

手がグーになっているご遺体は、少しづつ力を入れて、指を伸ばしておくこと。



- ・**橈側皮靜脈**
- ・**尺側皮靜脈**
- ・**肘正中皮靜脈を剖出する**

**橈側皮靜脈**

**肘正中皮靜脈**

採血に使用。上腕二頭筋腱膜の上を通るため上腕動脈や正中神経を傷つけない。浅くて適当な太さがある。脱衣する必要がない。

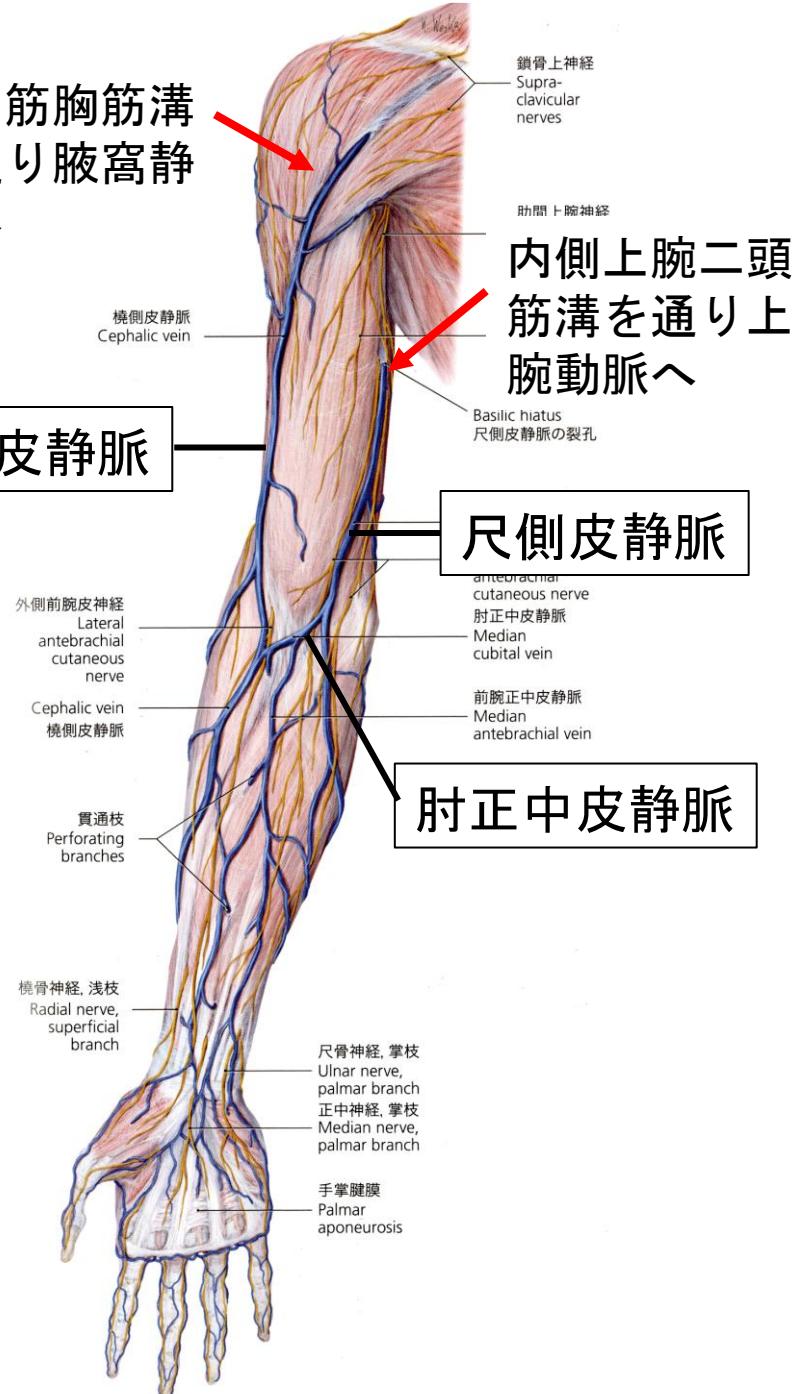
**尺側皮靜脈**

三角筋胸筋溝  
を通り腋窩靜脈へ

**橈側皮靜脈**

**尺側皮靜脈**

**肘正中皮靜脈**



# 剖出しながら前面の皮神経を確認する



## 筋皮神経の枝

前面の破線は、上腕二頭筋の輪郭を示す

前面



後面

後面の破線は、三角筋の後縁、  
上腕三頭筋の外側縁、肘頭を  
示す

## 感覺支配(皮膚)

肋間上腕皮神經

内側上腕皮神經

■ : 胸窩神經

■ : 筋皮神經

■ : 桡骨神經

■ : 正中神經

■ : 尺骨神經

外側前腕皮神經

内側前腕皮神經

前面

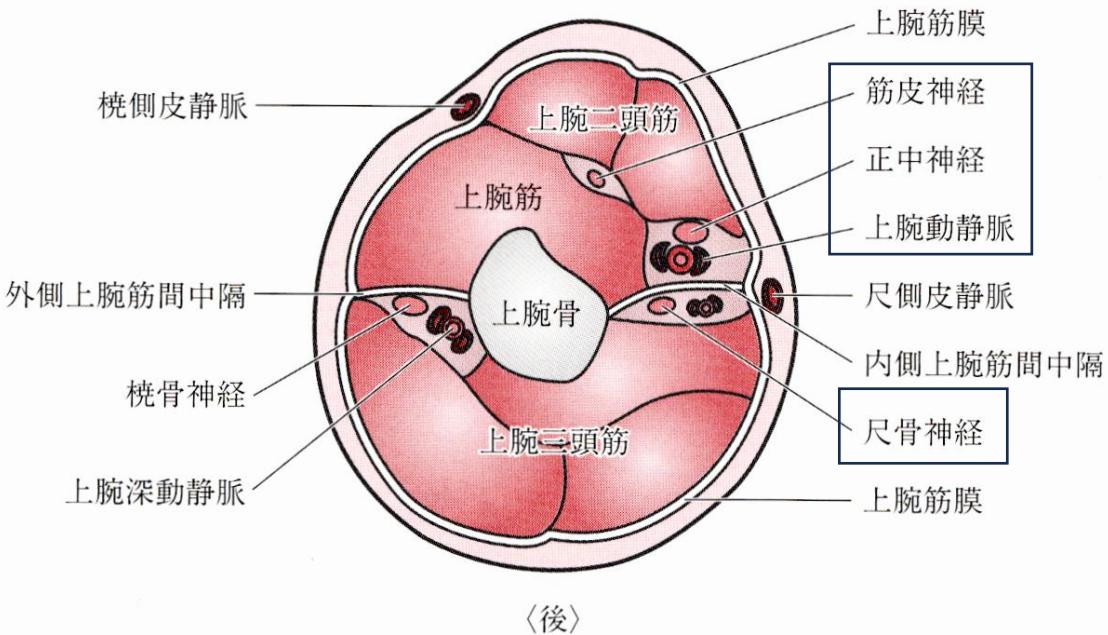
下外側上腕皮神經

後面

後上腕皮神經

後前腕皮神經

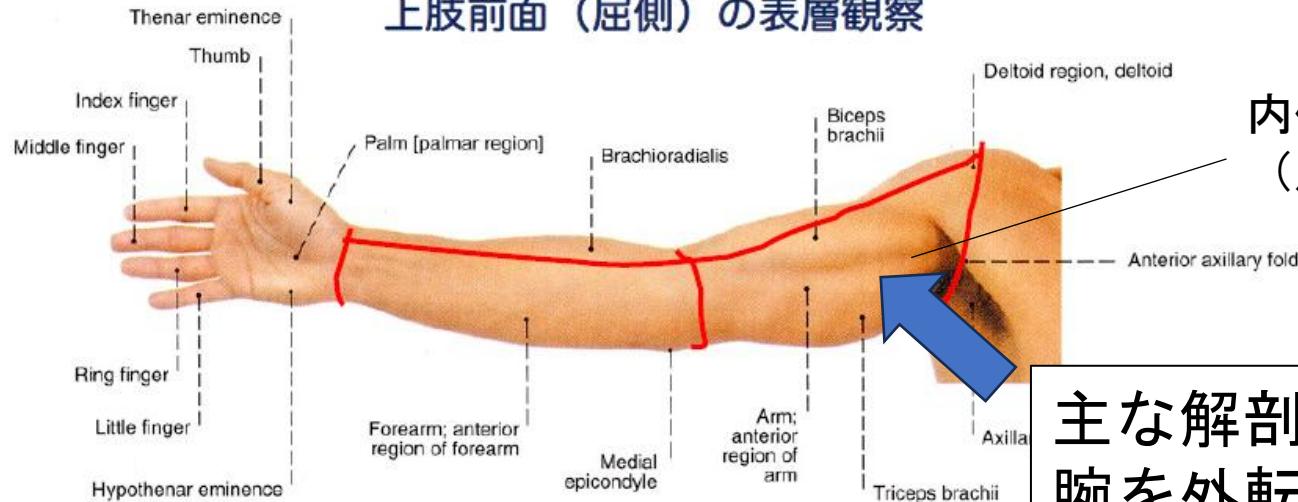
〈前〉



〈後〉

解剖学講義（南山堂） 図 2-46 上腕中央部の横断

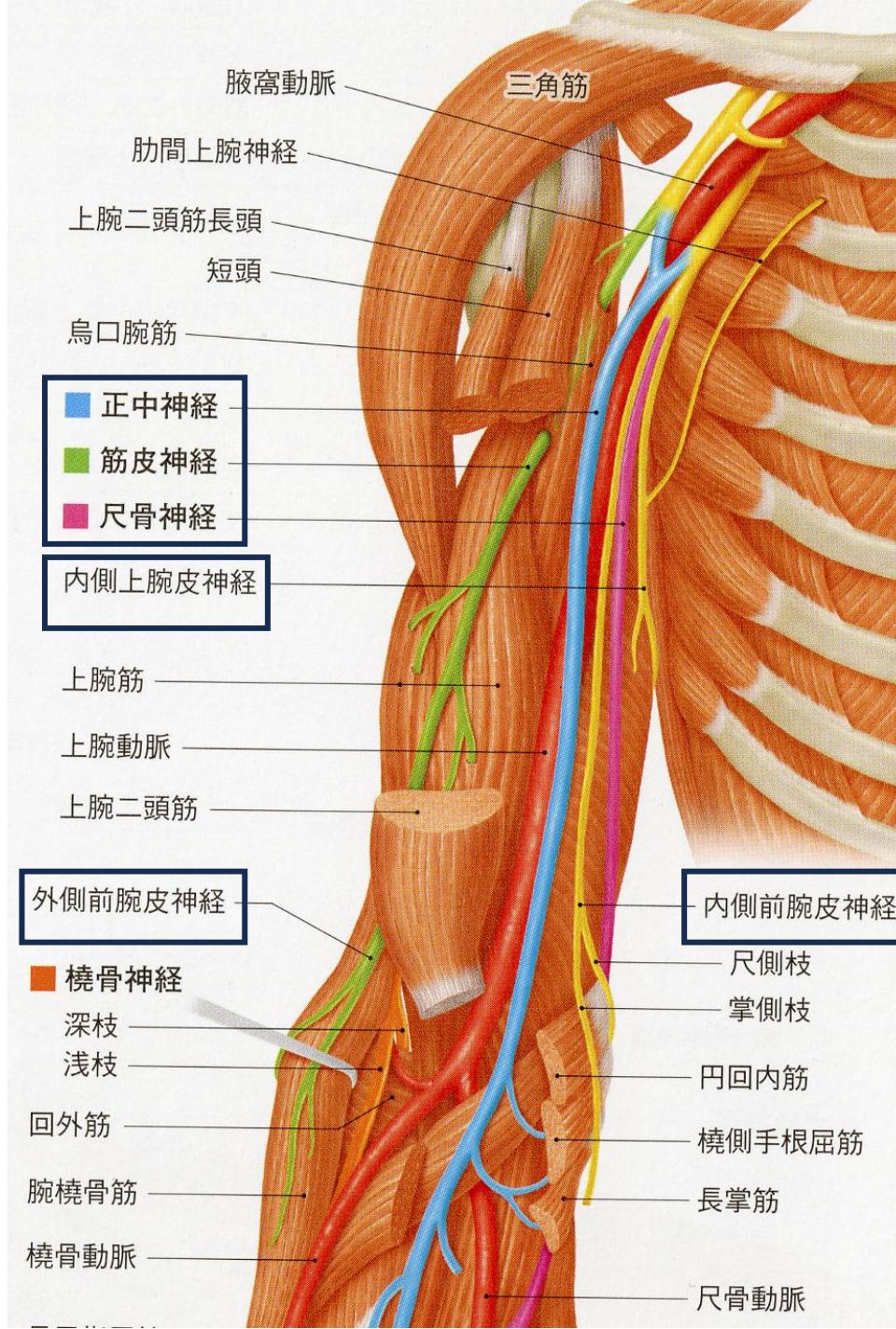
### 上肢前面（屈側）の表層観察



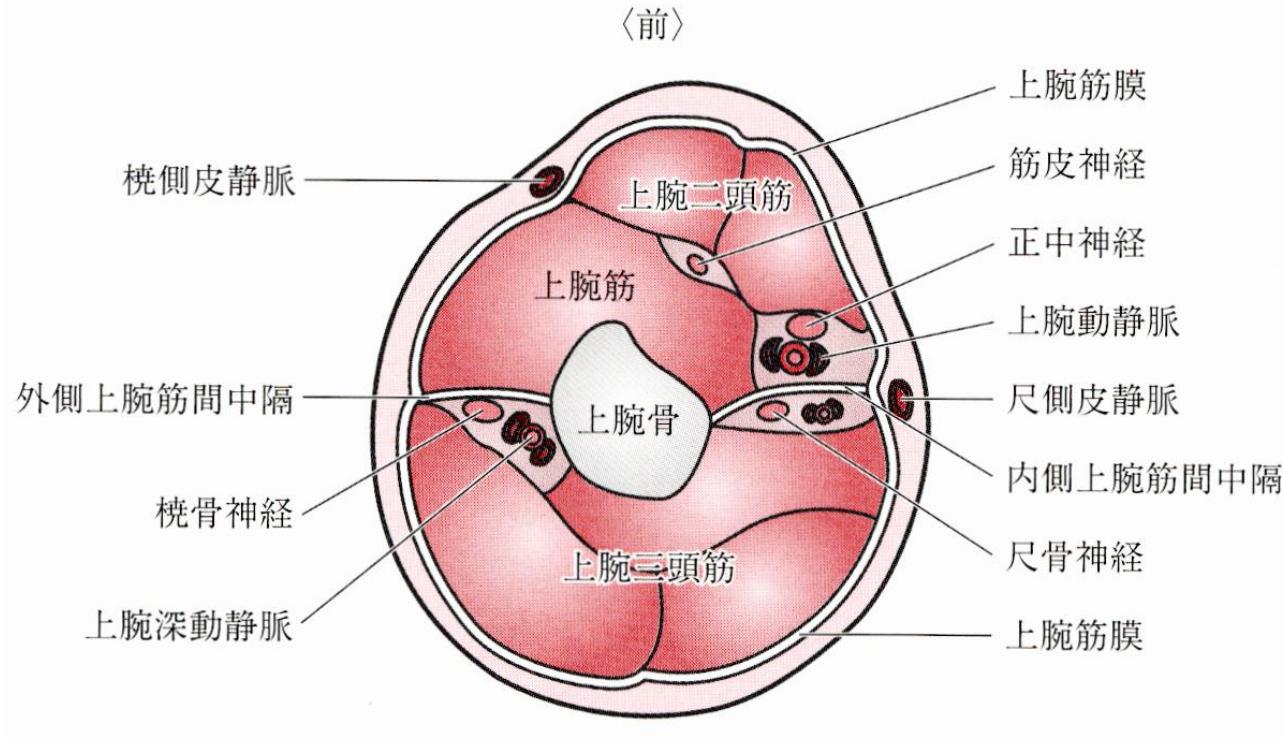
内側二頭筋溝  
(尺側皮靜脈が通る)

主な解剖場所はこちら。  
腕を外転させるとよい。

筋皮神経・正中神経・  
尺骨神経を剖出する。  
走行を確認する。



上腕動脈とその枝を剖出する。  
伴行する上腕静脈は動脈からはがす。  
このとき、動脈から出る枝は切らないように！



解剖学講義（南山堂）

図 2-46 上腕中央部の横断

## 上肢の靜脈

浅静脈（皮静脈）：皮下を走る

深静脈：動脈に伴って走る伴行静脈で、動脈と同じ名称で呼ばれる。  
同名の動脈の同側を 2 本の静脈が対になって走る。

上腕動脈から分岐しているところを剖出する

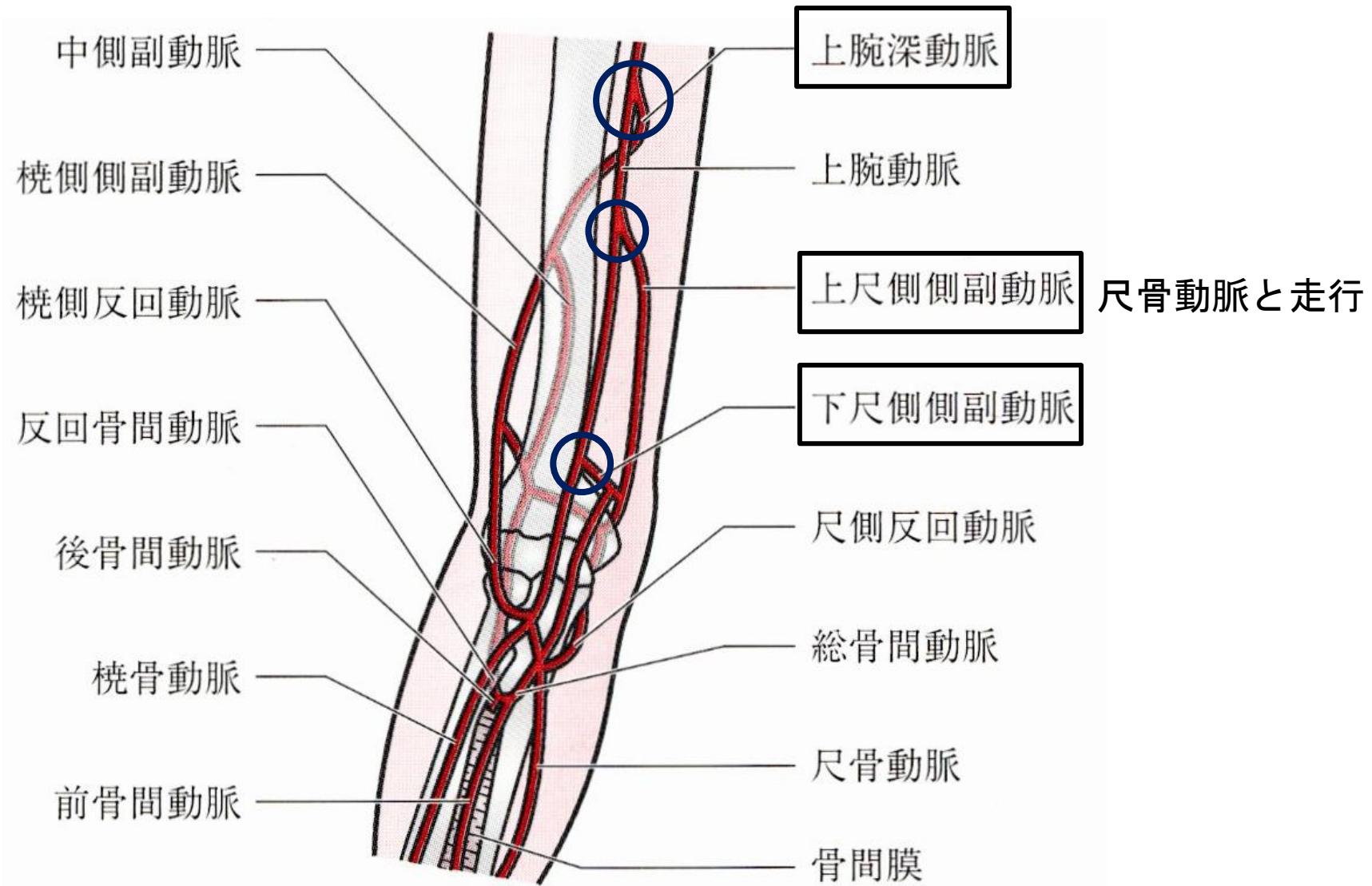
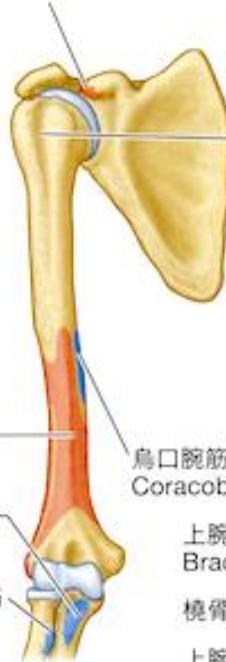


図 2-87 上腕動脈・橈骨動脈・尺骨動脈

解剖学講義（南山堂）

# 上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋を確認する。

上腕二頭筋(短頭)と烏口腕筋  
Biceps brachii(short head)  
and coracobrachialis



(A)骨の付着部

肩甲骨の関節上結節  
Supraglenoid tubercle  
of scapula

上腕横韌帶  
Transverse  
humeral ligament

結節間溝  
Intertubercular  
sulcus

上腕二頭筋  
Biceps brachii :

短頭  
Short head

長頭  
Long head

上腕筋  
Brachialis

上腕筋  
Brachialis

上腕二頭筋  
Biceps  
brachii

烏口腕筋  
Coracobrachialis

上腕筋  
Brachialis

桡骨粗面への付着  
Attachment to the lateral epicondyle of the humerus

上腕二頭筋腱膜  
Bicipital aponeurosis

(B)上腕二頭筋

肩甲骨烏口突起  
Coracoid process of scapula

烏口腕筋の付着部  
Attachment of  
coracobrachialis

上腕二頭筋短頭の  
付着部  
Attachment of short  
head of biceps

上腕二頭筋長頭  
Long head of biceps

烏口腕筋  
Coracobrachialis

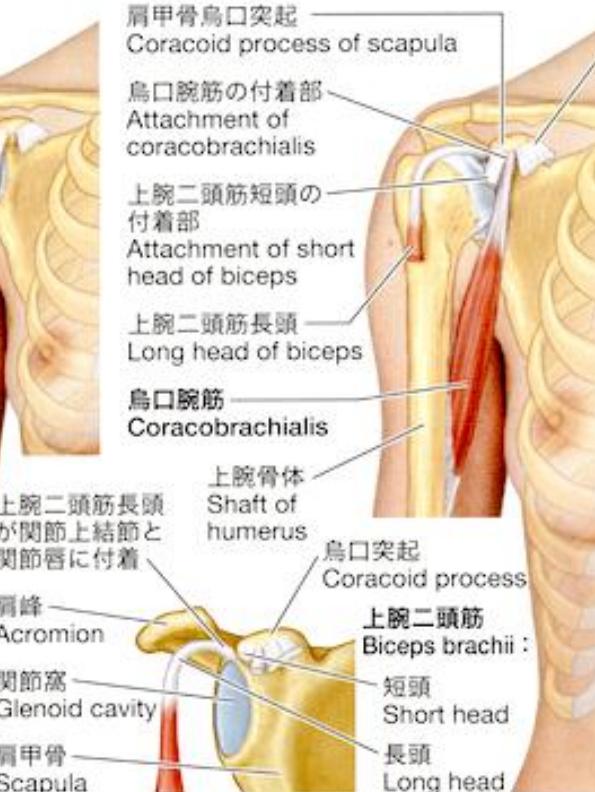
上腕骨体  
Shaft of  
humerus

上腕二頭筋長頭  
が関節上結節と  
関節窓に付着  
Attachments of long head of biceps to the supraglenoid tubercle and glenoid cavity

肩峰  
Acromion

関節窓  
Glenoid cavity

肩甲骨  
Scapula



(C)烏口腕筋

小胸筋の付着部  
Attachment of  
pectoralis minor

上腕骨  
Humerus

三角筋の  
付着部  
Attachments of  
deltoid

上腕骨体  
Shaft of  
humerus

上腕筋  
Brachialis

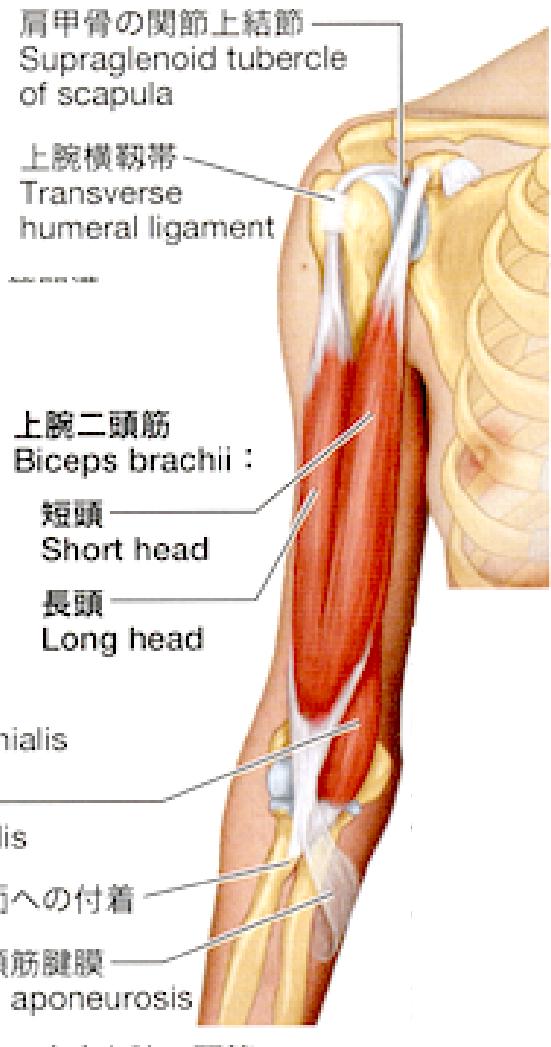
尺骨の鉤状  
突起への  
付着  
Attachment to the olecranon process of ulna



(D)上腕筋

上腕二頭筋の長頭と短頭の間に  
指を入れてわかる

# 筋は、「起始・停止・支配神経・作用」をセットで覚えること



回外位

## 上腕二頭筋 (Biceps brachii)

作用：前腕の屈曲、回外に働く

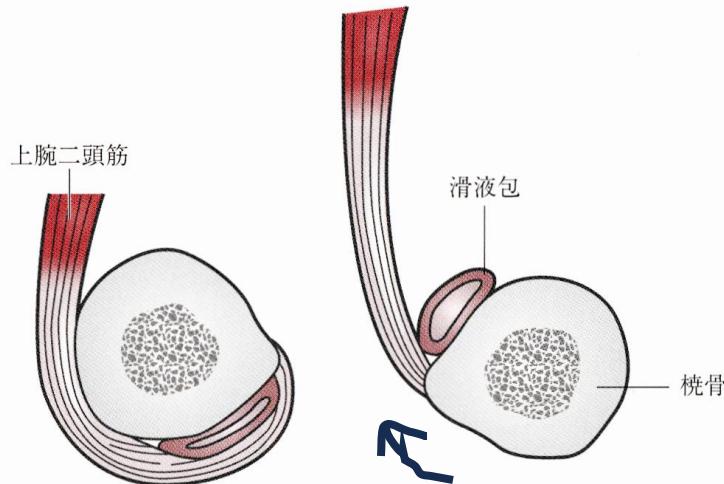
支配神経：筋皮神経

起始：長頭：関節上結節

短頭：烏口突起

停止：橈骨粗面

前腕筋膜（上腕二頭筋腱膜として）



解剖学講義（南山堂）

図 2-43 上腕二頭筋の前腕回外作用

上腕二頭筋の橈骨付着部はまわりこんだところにあるので、  
上腕二頭筋が収縮すると橈骨頭は外旋する。

1. 体表観察と指標となる構造の触知を行う。
2. 切開線を入れ、皮剥ぎを行う。
3. 上肢前面の皮静脈、皮神経の剖出を行う。
4. 筋皮神経（外側前腕皮神経）、正中神経、尺骨神経の走行の確認と剖出。
5. 内側二頭筋溝から上腕筋、上腕動脈、腕神経叢由来の神経を剖出する。
6. 上腕動脈とその枝を剖出し、伴走する上腕静脈をはがす。  
(動脈からの分岐は残すこと)
7. 上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋を確認する。
8. 頸部が終わっていなければ、続きをを行う。

-----教員のチェックを受ける-----

最後に実習台まわりの床を確認して、体液が垂れていたら雑巾で拭くこと